

# 新たな戦略的現実

宇宙、AI、資源をめぐる地政学的フロンティアと日本の針路



# 一つの時代の終わり、新たな競争の夜明け

冷戦後の米国一極集中時代は終焉を迎え、米中間の長期的戦略的競争によって定義される新たな現実が到来しました。この競争は、従来の軍事衝突ではなく、経済、テクノロジー、そしてイデオロギーが主戦場となります。



1980s-2000s

鄧光養晦

Deng Xiaoping Era: Economic focus, low international profile.

2010s-Present

戰略的機会

Xi Jinping Era: Assertive pursuit of global influence.

キーデータ: 中国の国家戦略「国家の偉大な復興」は、明確な期限を設定していません: 2049年(中華人民共和国建国100周年)。この目標達成に向け、あらゆる国力が動員されています。(出典: RAND)

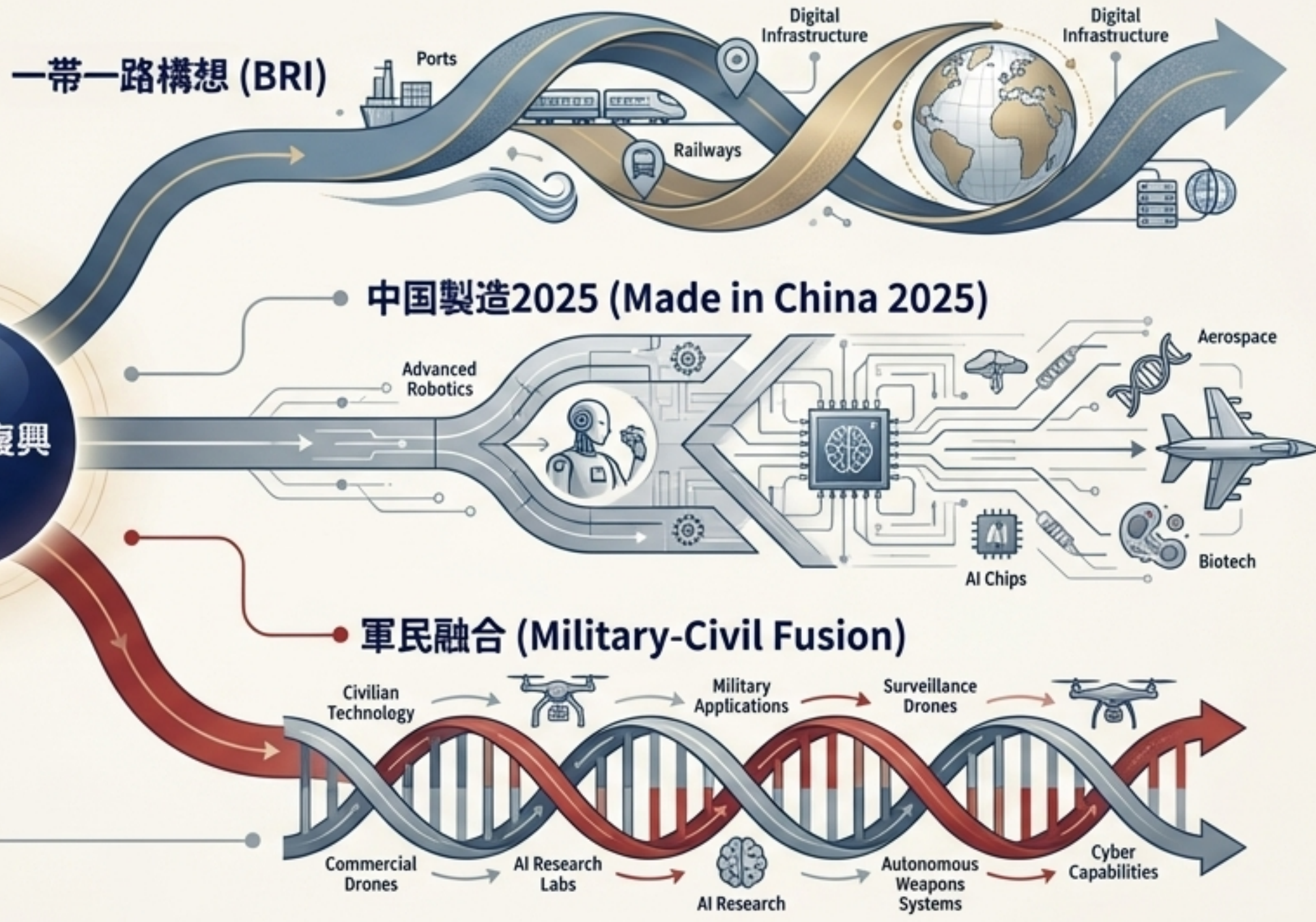
# 中国の国家戦略：覇権へのロードマップ

中国の戦略は、外交、経済、技術、軍事を統合し、国家のあらゆる力を2049年の目標達成のために動員する包括的なものです。その行動は、明確な「中核的利益」に基づいて決定されます。

3つの中核的利益  
(Core Interests):

1. **体制の安全:** 共産党支配の維持
2. **国家主権:** 領土保全と国家統一
3. **発展:** 経済・社会の持続的かつ安定的な発展

国家の偉大なる復興  
2049

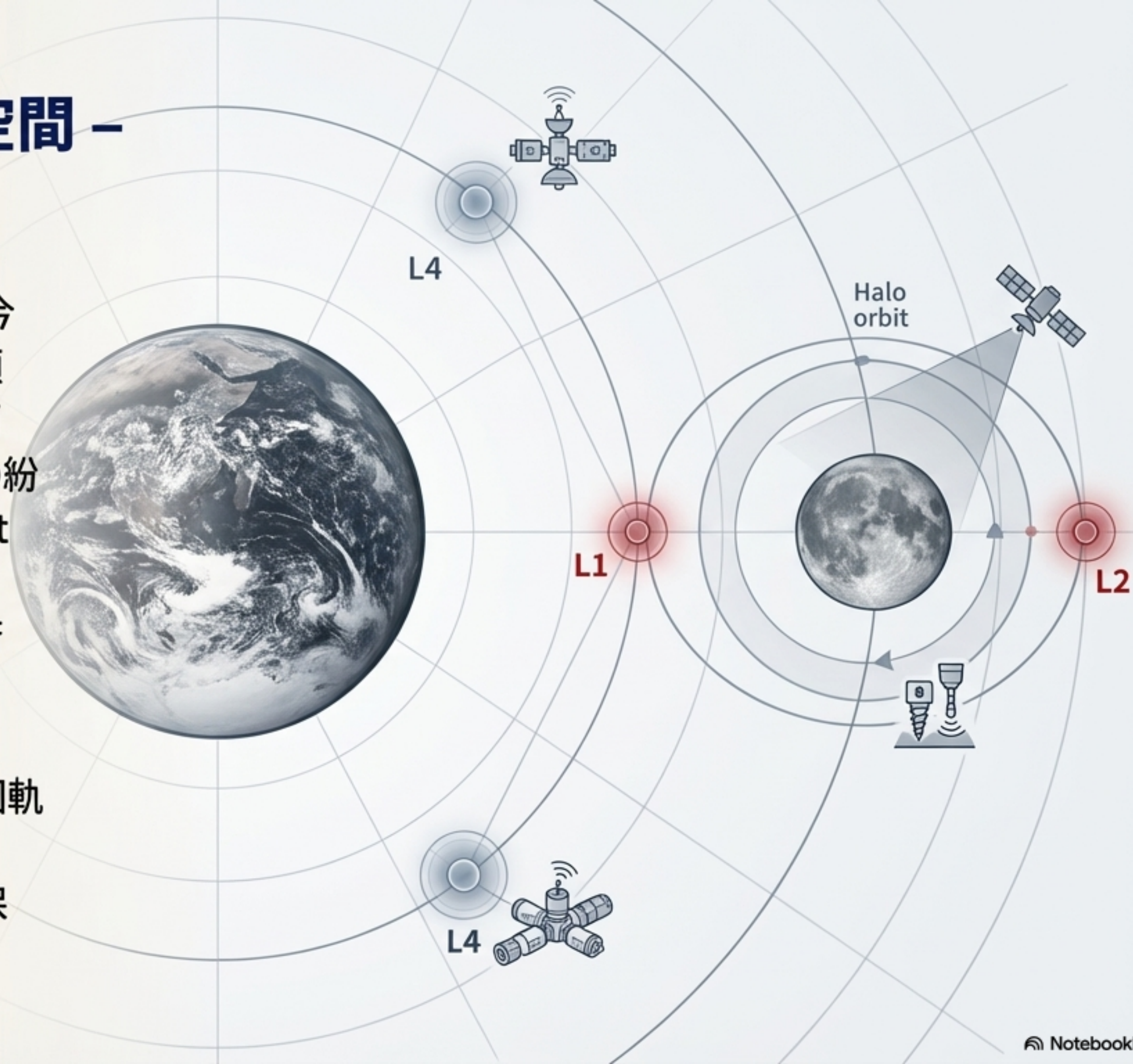


# 競争領域①：シスルナ空間 – 究極のハイグラウンド

地球-月システム（シスルナ空間）は、今や国家間の戦略的競争における最重要領域です。中国は、ラグランジュ点や月面を、地球近傍宇宙空間、ひいては地上の紛争を支配するための「戦略的要衝 (strategic key points)」と見なしています。その目的は国家の威信だけでなく、経済的・軍事的優位の確立にあります。

- 戦略的要衝: ラグランジュ点、月周回軌道、月面。
- 目的: 宇宙空間における優位性を確保し、地上への影響力を拡大する。

(出典: NSSA)



# 宇宙の経済学：地球の制約を超える資源獲得競争

地上の希少資源の枯渇と供給網の不安定化が、宇宙での新たなゴールドラッシュを加速させています。月や小惑星には、核融合燃料となるヘリウム3や、エレクトロニクスに不可欠なレアアースなど、数兆ドル規模の重要鉱物が眠っています。これは、コンゴ民主共和国や中国といった特定の供給国への依存から脱却し、経済安全保障を確立する上で極めて重要です。

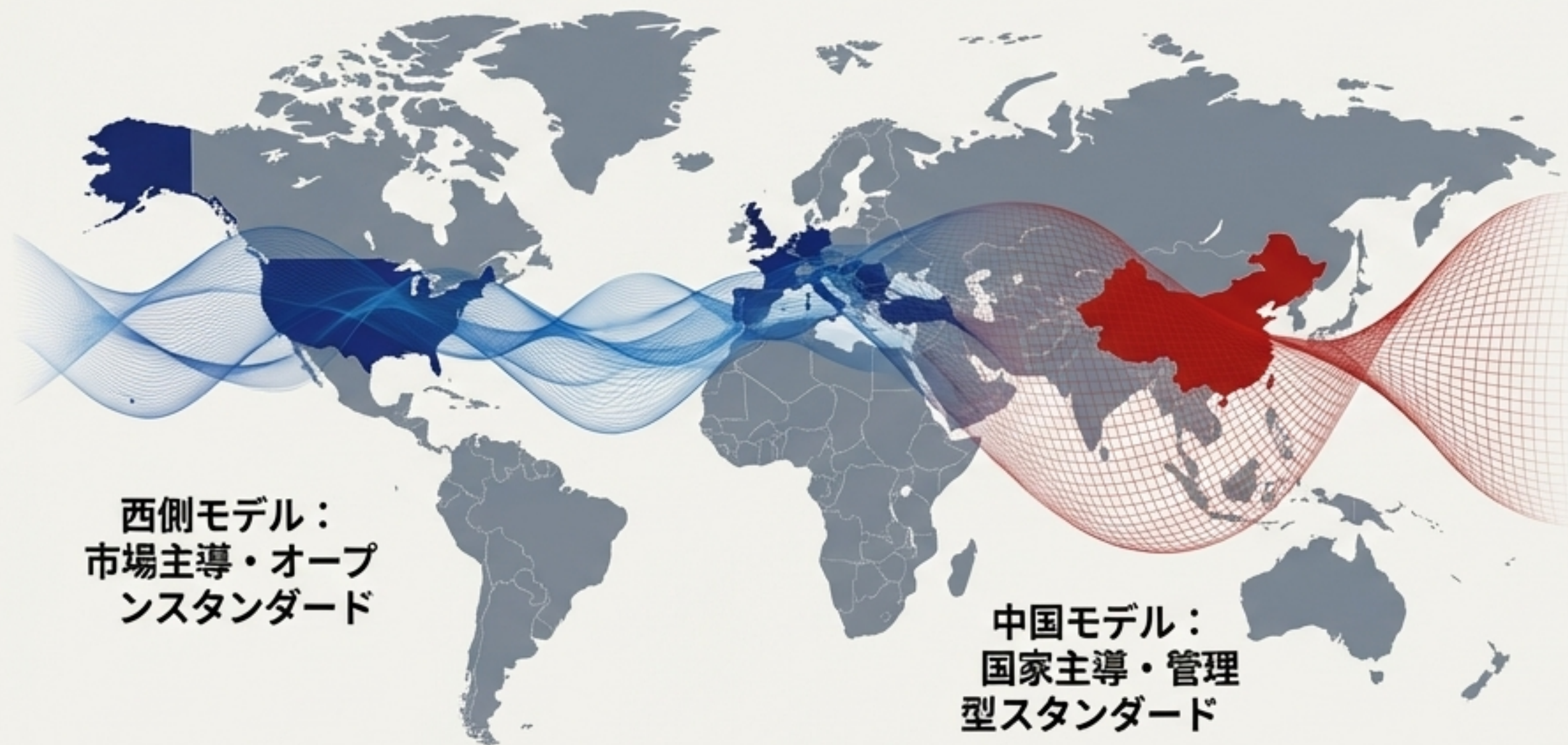
- **宇宙の重要資源:** ヘリウム3（核融合）、レアアース、プラチナ、コバルト。
- **地上の課題:** 米国は消費する鉱物の50%以上を輸入に依存。中国は世界のレアアースの80%を精製しており、2023年にはガリウム等の輸出規制を発動。

(出典: CNAS)



## 競争領域②：人工知能 – 未来の社会OSを設計する

AIは経済成長と国力を左右する基盤技術です。中国は、AIの国家主導での開発を強力に推進すると同時に、厳格な国内規制を通じてグローバルな基準設定を狙っています。これは単なる国内のルール作りではなく、自国の統治モデルを世界に輸出する試みです。



### 中国のAIガバナンス

- AI技術倫理委員会 (Ethics Committees): AIプロジェクトの倫理審査を義務化。
- AIGCラベリング措置 (AIGC Labelling Measures): AIが生成したコンテンツへのラベリングを義務化し、透明性とトレーサビリティを確保。

(出典: Mayer Brown)

# 人間への影響：AIが変える仕事の未来

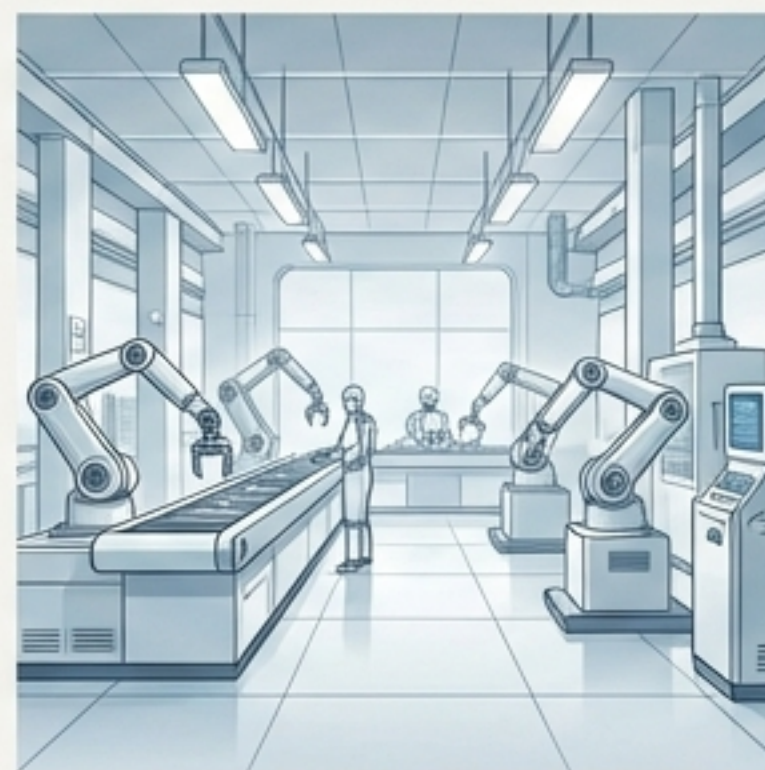
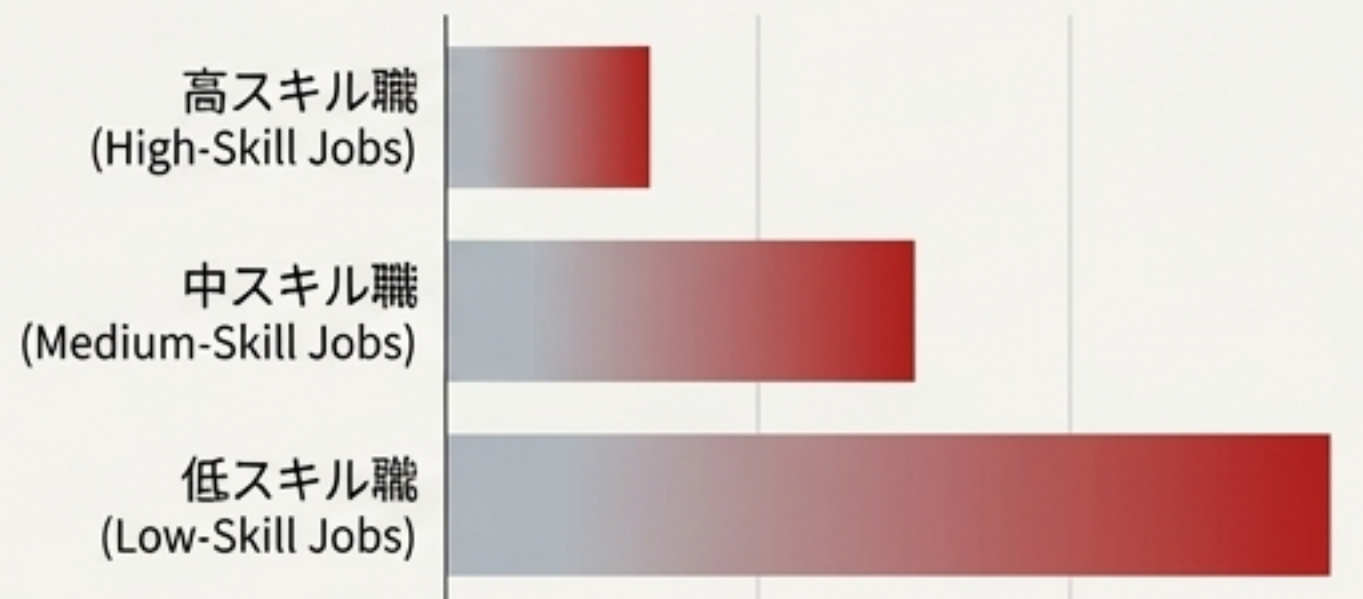
AI革命は、生産性の飛躍的な向上を約束する一方で、労働市場と社会の安定に重大なリスクをもたらします。多くの既存の職務が自動化の対象となり、労働力の再教育や新たな社会保障制度の構築は、国家レベルの喫緊の課題です。

**自動化のリスク:** OECD諸国では、平均して**28%の雇用**が、自動化されるリスクが非常に高い職業に分類される。

**政策的要請:** スキルの再教育（リスキリング）、社会的セーフティネットの強化、テレワーク等の新しい労働規範の確立が急務。

(出典: OECD)

## 自動化リスクに晒される雇用の割合



# 次なる地平線：火星への移住計画

地政学的競争の先で、技術の加速度的進化は人類を多惑星種へと押し上げています。かつてSFの領域であった火星移住は、今や具体的なロードマップとして語られ始めています。これは、我々が突入した新時代の技術的野心の究極的な表現です。



2030年代

最初の有人基地の建設

2050年代

最初のドーム型都市の出現

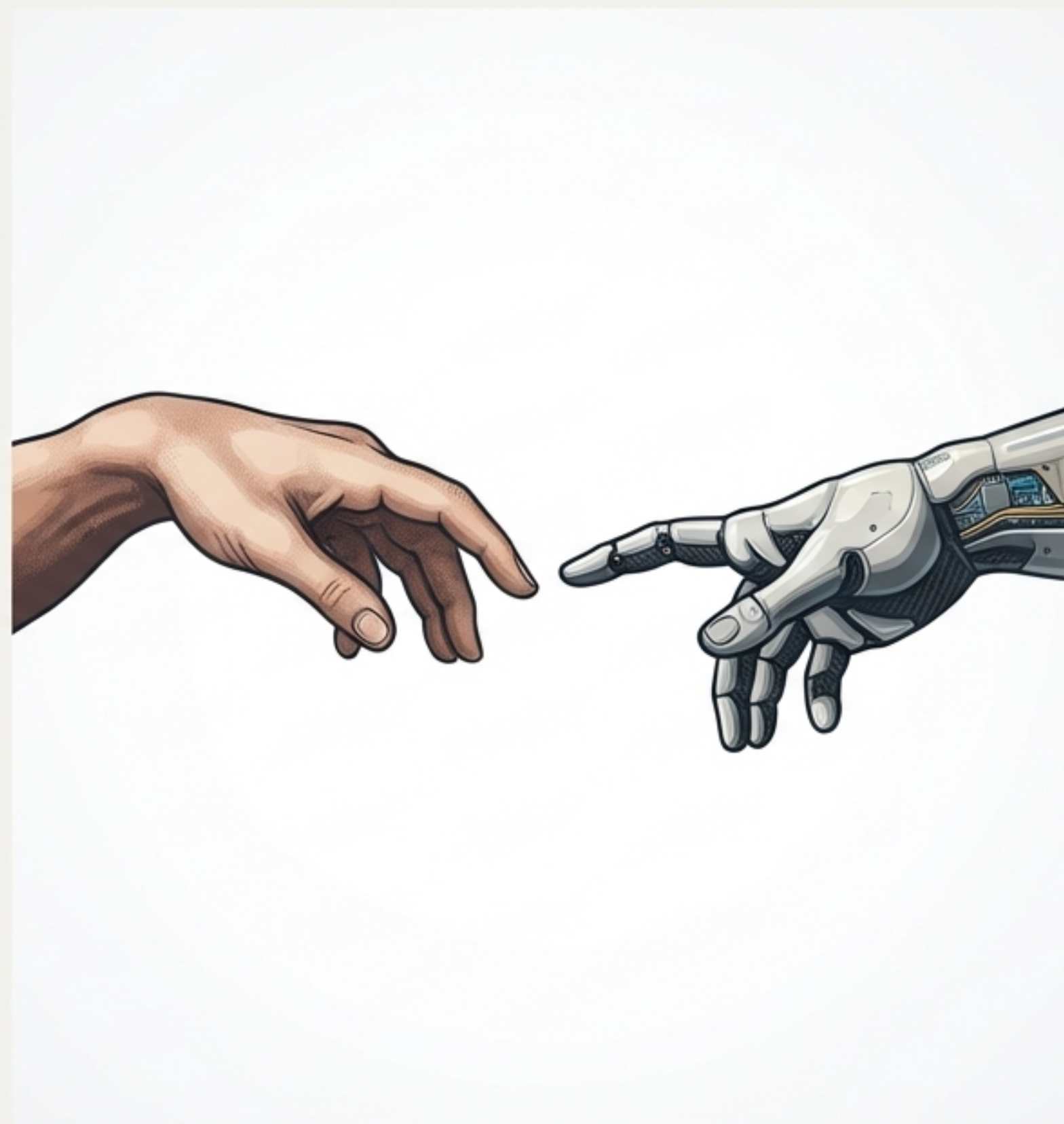
2090年代

人口100万人に到達

# ポストヒューマンという問い： 人体拡張と倫理

テクノロジーが人体と融合するにつれ、我々は「人間であること」の定義そのものを問われる深刻な倫理的課題に直面します。失われた機能を取り戻す「治療」と、能力を向上させる「強化」の境界線は、ますます曖昧になっています。

**倫理的ジレンマ**：心臓のペースメーカーと、人格を変えうるブレイン・コンピューター・インターフェースの間に、我々はどこで線を引くべきか？  
技術の進歩が我々の叡智を追い越す前に、新たな倫理的枠組み「**サイボーグ倫理 (Cyborgoethics)**」の構築が不可欠である。



(出典: Emerald)

# ガバナンスの空白：新たな宇宙利用に対応できない古い条約

我々の国際的な法的枠組みは、現代の技術進歩に危険なほど追いついていません。1967年に締結された宇宙条約は、商業的な小惑星採掘、民間企業による月面基地建設、あるいは宇宙空間での交通管理を想定して設計されていません。

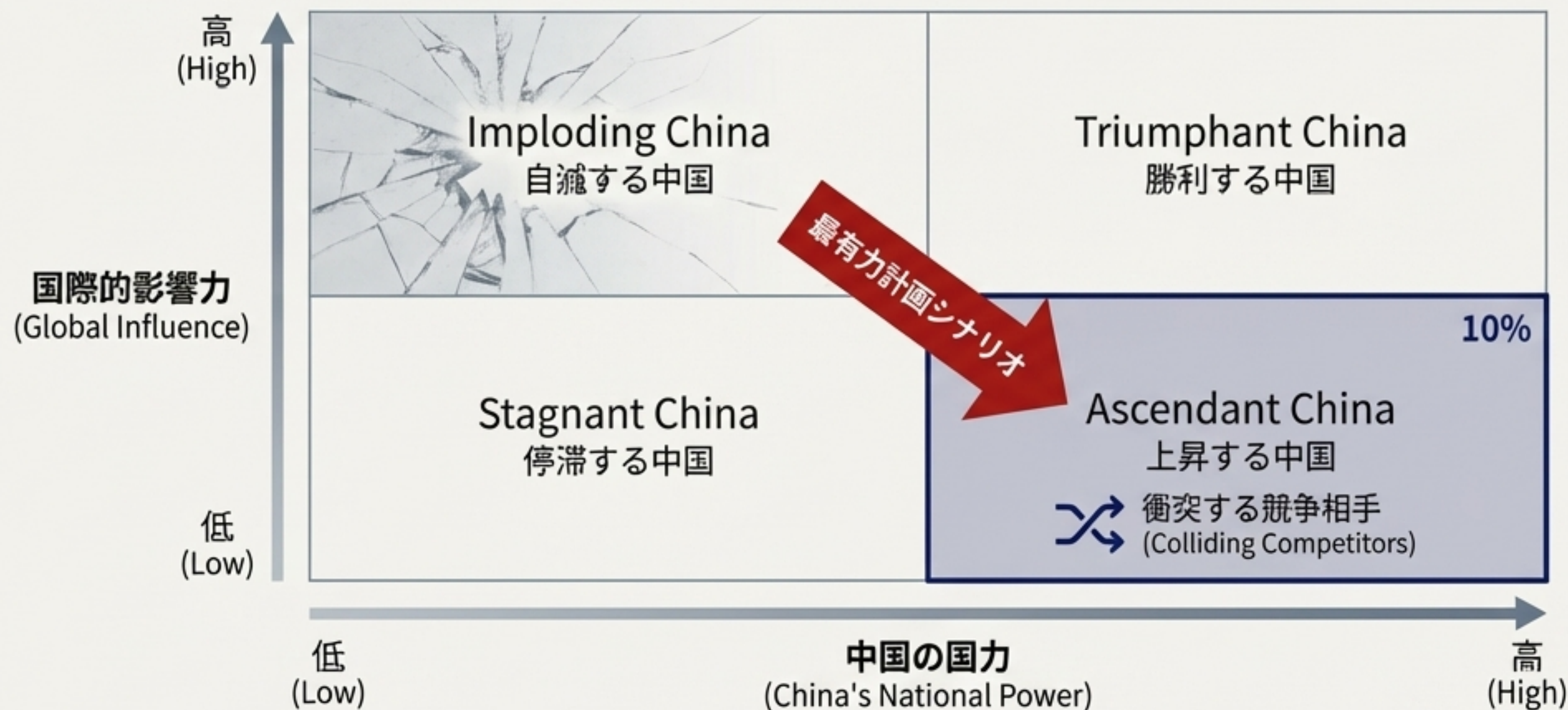
**紛争のリスク**：資源の所有権、宇宙ゴミの処理、軌道上の交通管理などに関する明確なルールがなければ、国家間の紛争は避けられない。南シナ海での中国の行動は、ルールが未整備な領域で、既存の国際規範を無視して既成事実を積み重ねるといふ、将来の宇宙における振る舞いを予見させる警告となっている。

(出典: CNAS, NSSA)



# 2050年の世界：中国の4つの未来と米中関係の3つの軌道

中国の国家戦略が成功する保証はありません。しかし、戦略を立案する上で最も賢明なアプローチは、最も挑戦的でありながら、十分に起こりうるシナリオに備えることです。



結論：「上昇する中国」が「衝突する競争相手」となる未来が、最も慎重な計画を要するシナリオです。

# 2050年、「上昇する中国」がもたらす世界

このシナリオでは、中国はアジアにおける支配的な大国となり、米国と世界レベルで比肩する競争相手となります。これは、米国とその同盟国にとって最も挑戦的な未来です。

- 宇宙: シスルナ空間の主要な拠点と資源を管理下に置く。
- テクノロジー: 自らの影響圏において、AIとデジタルガバナンスの事実上の世界標準を確立。
- 軍事: 強固な接近阻止・領域拒否 (A2/AD) 能力を保有し、この地域への米国の軍事介入を極めてハイリスクなものにする。

(出典: RAND, NSSA)



# 日本の安全保障へのインプリケーション

この新たな戦略的現実、日本の安全保障政策の根幹を揺るがすものです。  
従来の前提に基づいた国家運営は、もはや通用しません。



# 我々は戦略の岐路に立っている

我々は極めて重要な歴史の転換点にいます。宇宙、テクノロジー、そして国際秩序の未来は、まだ決まっていません。それは、今日この瞬間に行われる戦略的な選択によって形作られます。

**この新たな競争において、何もしないという選択は、未来を他者に委ねることを意味します。未来を自ら形成するための唯一の道は、主体的な関与と先を見越した行動です。我々はこの競争の観客となるのか、それとも新たなルールを記述する参加者となるのか。その選択が問われています。**



# 議論へのご参加を

**「21世紀をめぐる競争は、短距離走ではなくマラソンである。  
勝利を収めるのは、最も速い者ではなく、  
最も戦略的で、最も強靱な者であろう。」**